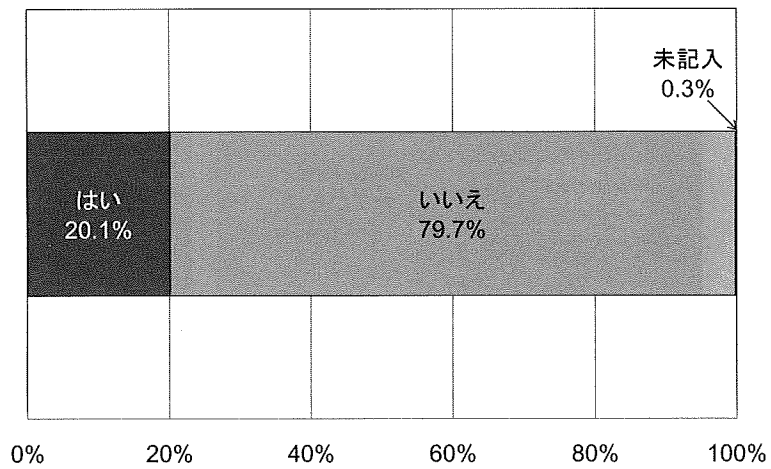
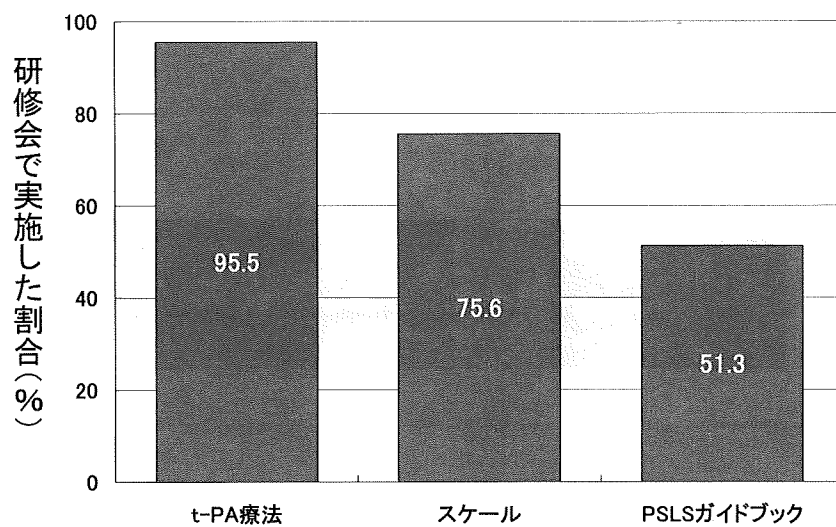


平成19年度に脳卒中に関する研修を開催しましたか？



脳卒中研修会の内容



まとめ [脳卒中スクリーニング]

- ・ 脳卒中病院前スケールの使用を取り決めている消防本部は15%と少なかった
- ・ 使用を取り決めている本部で用いているスケールは、PSLSコースガイドに記されているCPSS,KPSSが多かった
- ・ 使用を取り決めていない理由としては、MC協議会や管轄内の医療機関との話し合いがもたれていないことが挙げられていた

まとめ [脳卒中研修会]

- ・ 平成19年度に脳卒中研修会を行ったのは、全消防本部の約2割であった
- ・ t-PA療法についてはほとんどの研修会で説明されていたが、PSLSコースガイドブックの使用は約半数のみであった
- ・ 「医師の協力を得るのが困難」「費用が工面できない」などが、開催できない理由として記載されていた

脳卒中の救急搬送システムおよび 病院前脳卒中スケール使用状況等 に関する調査 — 消防本部規模による検討 —

宮松 直美、盛永美保、小河望、荻田美穂子、加藤みのり(滋賀医科大学)
岡村 智教、豊田一則(国立循環器病センター)
有賀 徹(昭和大学医学部)
中山博文(社団法人日本脳卒中協会)
木村和美(川崎医科大学)

調査の目的

- 脳卒中急性期の適切な医療の提供には、
一般市民の脳卒中症状の理解に加えて、
救急隊員による適切な判断と搬送が重要である。
今回、全国の消防本部(以下、本部)を対象に
脳卒中の救急搬送システムおよび病院前脳卒中
スケール(以下、スケール)使用状況等を調査し
た。

調査方法

調査対象：全国消防本部（807箇所）

調査期間：2008年9-11月

調査方法：自記式、郵送法

調査内容：

- ・消防本部の基本属性
- ・脳卒中搬送時のルール
- ・病院前脳卒中スケールの使用状況
- ・脳卒中に関する研修実施状況
- ・遺伝子組み換え型組織プラスミノゲンアクティベータ(rt-PA)療法による血栓溶解療法実施医療機関の把握
- ・rt-PAの普及のために必要と考えられること など

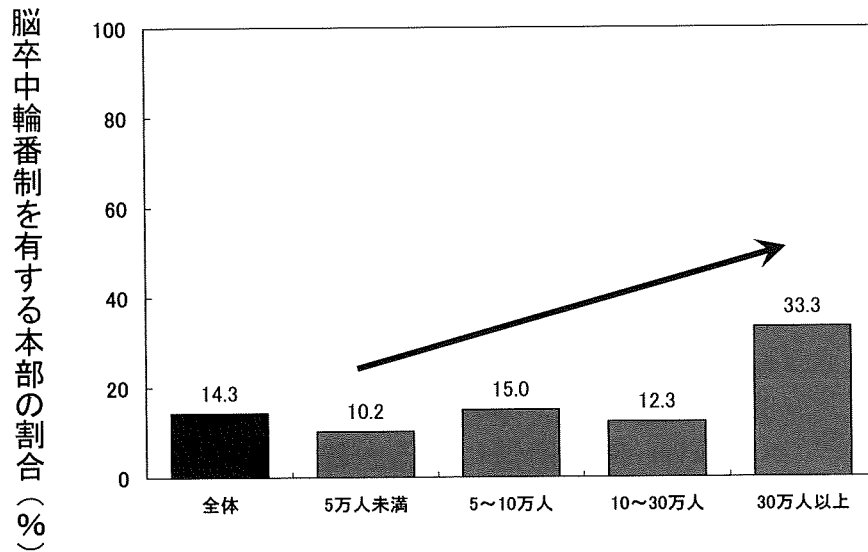
結果 ー 全体・管轄内人口別回答率

➤ 回答率：96.3%（807本部中 777本部）

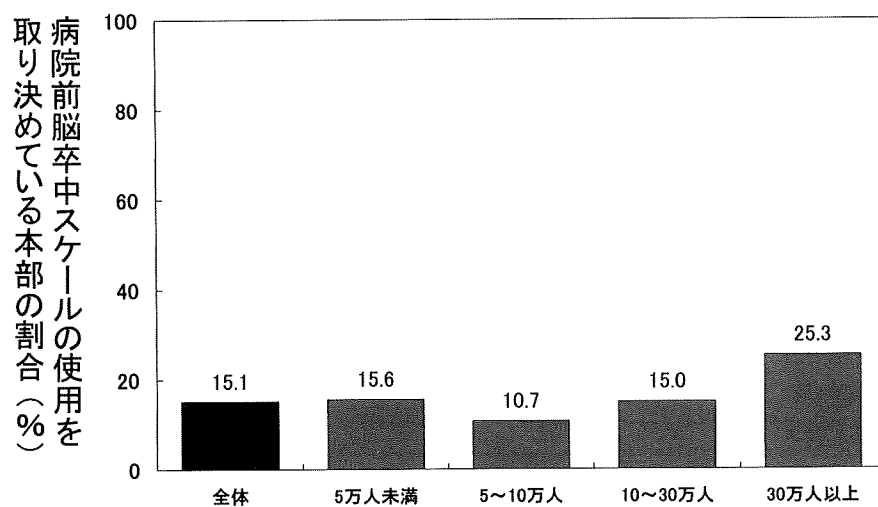
	全体	管轄内人口別 *			
		5万人未満	5～10万人未満	10～30万人未満	30万人以上
対象数	807	266	222	239	80
回答数	777	256	214	227	75
回答率	96.3	96.2	96.4	95.0	93.8
管轄内人口計*	12315万	825万	1539万	3754万	6197万

*管轄内人口未記入の5本部除く、772本部の集計結果

脳卒中救急搬送時に対応する輪番制

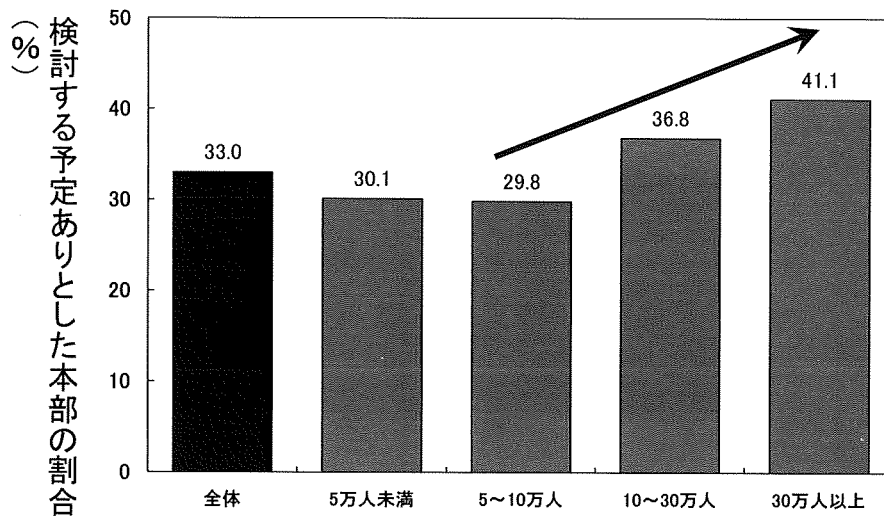


病院前脳卒中スケール使用の取り決め



今後の病院前脳卒中スケール使用予定

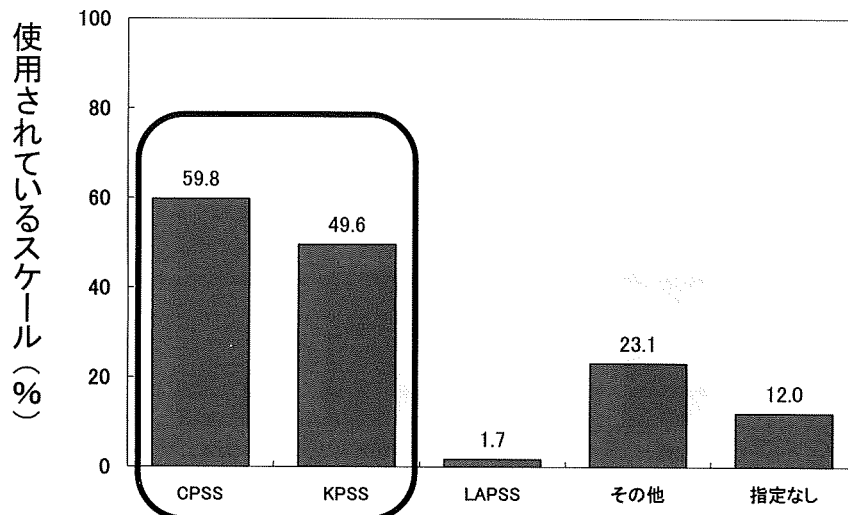
※病院前脳卒中スケール使用を取り決めていない660本部



使用しているスケールの種類

※病院前脳卒中スケール使用を取り決めている117本部

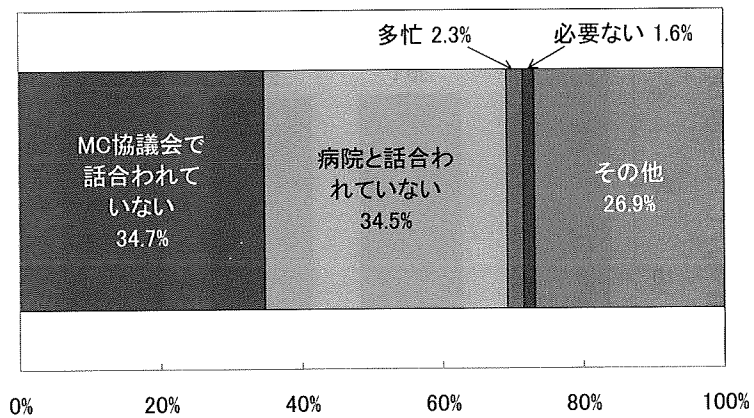
※複数回答



病院前脳卒中スケールの使用を 取り決めていない理由

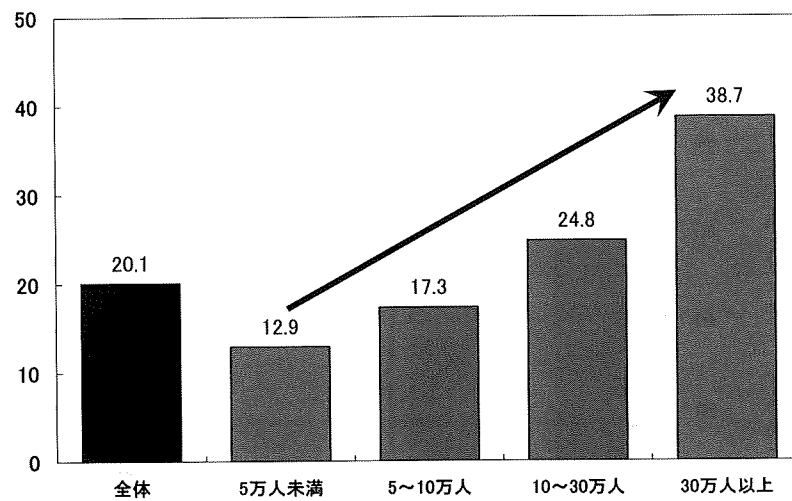
※病院前脳卒中スケール使用を取り決めていない660本部

各理由を選択した本部の割合(%)



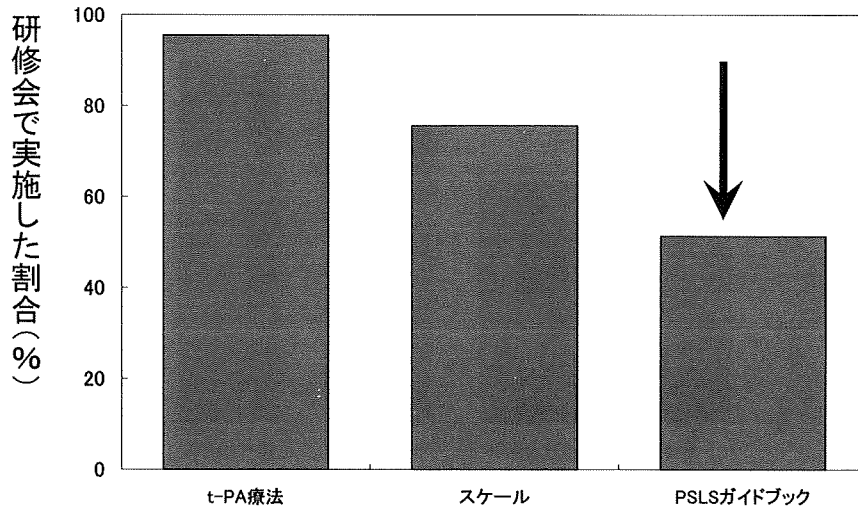
平成19年度の脳卒中研修会開催

一回以上開催した本部の割合(%)

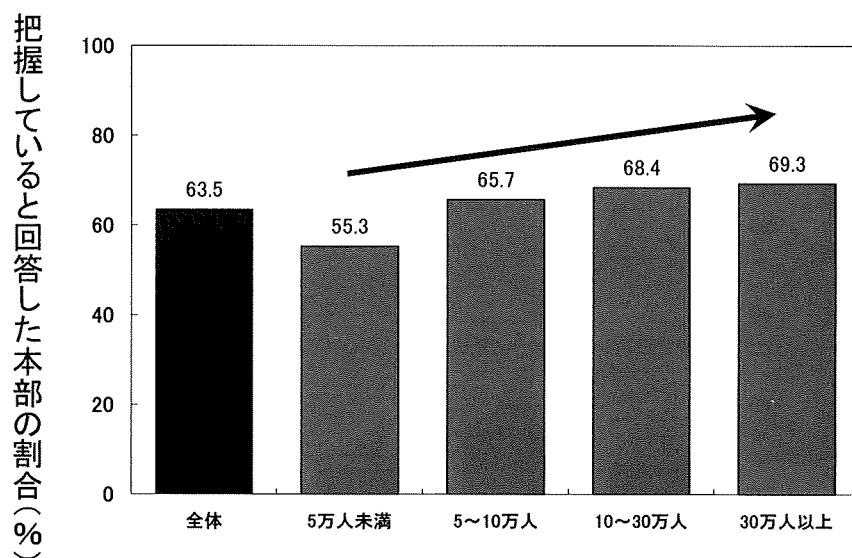


脳卒中研修会の内容

※平成19年度に脳卒中研修会を開催した156本部

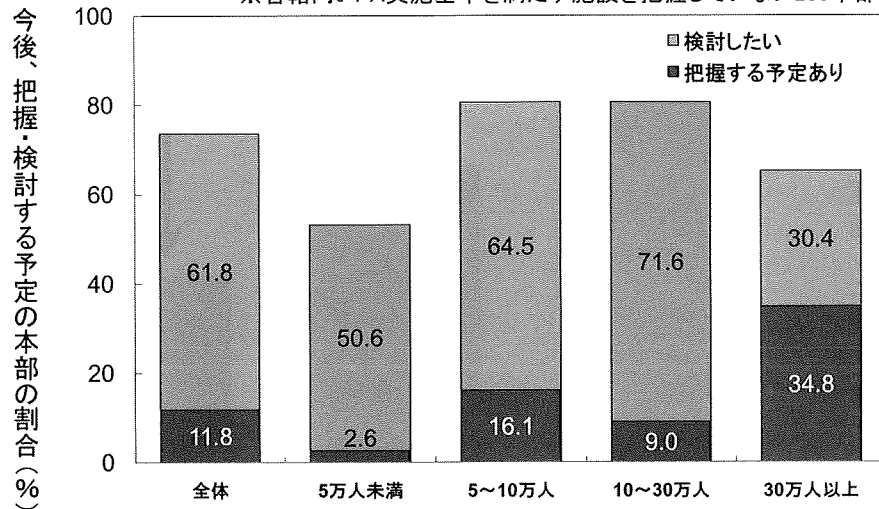


管轄内t-PA療法実施施設の把握状況

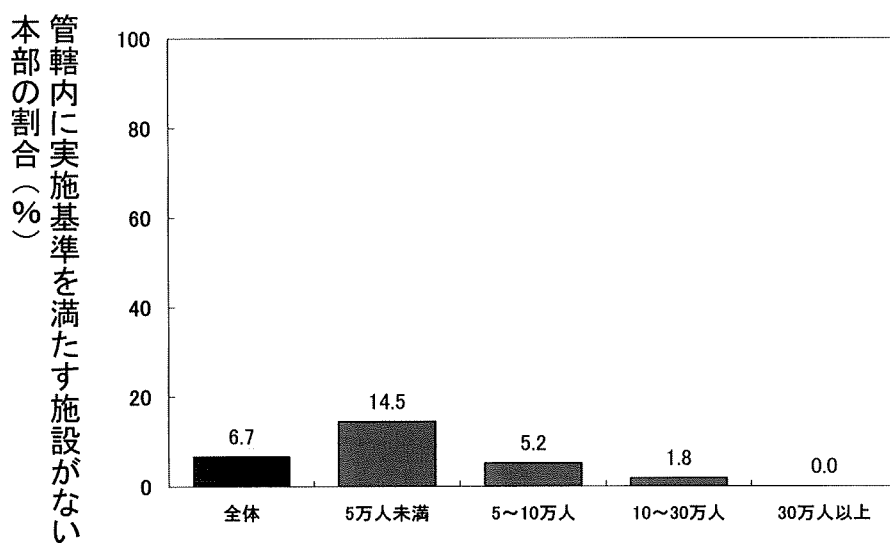


管轄内t-PA療法実施施設の把握予定

※管轄内t-PA実施基準を満たす施設を把握していない230本部



管轄内にt-PA実施施設のない本部



まとめ

- ▶ 病院前脳卒中スケールの使用を取り決めている本部は約15%と少ない
- ▶ 脳卒中救急搬送に関する多くの項目で、管轄内人口が小さいほど実施割合が低く、設置地域の医療資源の状況などを反映している可能性
- ▶ 消防本部規模や地域特性に応じた搬送システムの改善による脳卒中救急搬送の向上の可能性を検討することが必要

平成20年度厚生労働科学研究費補助金
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
「超急性期脳梗塞患者の救急搬送及び急性期受け入れ態勢に関する
実態調査研究」班組織

主任研究者

木村和美(川崎医科大学 脳卒中医学教室)

分担研究者

有賀 徹(昭和大学医学部 救急医学講座)

岡村智教(国立循環器病センター 予防検診部)

宮松直美(滋賀医科大学 臨床看護学講座)

鈴木幸一郎(川崎医科大学 救急医学教室)

井口保之(川崎医科大学 脳卒中医学教室)

芝崎謙作(川崎医科大学 脳卒中医学教室)

厚生労働科学研究費補助金
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業

超急性期脳梗塞患者の救急搬送及び
急性期病院受け入れ体制に関する実態調査研究

平成 19 年度～ 21 年度 総合研究報告書

発行：平成 22 年 3 月 20 日
発行者：主任研究者 木村 和美
川崎医科大学 脳卒中医学
〒 701-0192 倉敷市松島 577
TEL (086) 462-1111 (代表)
FAX (086) 464-1128 (直通)

制作：(有)みかき栄伸堂
〒 700-0811 岡山市北区番町 2-12-3
TEL (086) 225-6700
FAX (086) 222-1381

